

平成27年6月3日  
午前10時開議  
議 場

1. 議事日程（第8日目）

日程第 1 一般質問

1. 北垣 潮君
  - (1) 合併10周年の検証
  - (2) 増田レポート「地方消滅論」について
  - (3) 国道266号線について
  - (4) 上天草高校への科増設について
2. 宮下 昌子君
  - (1) 市政運営について
  - (2) 小中学校統廃合問題について
  - (3) 国民健康保険について

---

2. 本日の出席議員は次のとおりである。（17名）

議長 田中 勝毅		
1 番 何川 誠	2 番 嶋元 秀司	3 番 切通 英博
4 番 塩田 真一	5 番 何川 雅彦	6 番 宮下 昌子
7 番 西本 輝幸	8 番 高橋 健	9 番 小西 涼司
10 番 北垣 潮	11 番 島田 光久	12 番 新宅 靖司
14 番 園田 一博	15 番 桑原 千知	16 番 渡辺 勝也
17 番 津留 和子		

---

3. 本日の欠席議員は次のとおりである。（0名）

なし

---

4. 会議事件説明のため出席した者の職・氏名

市 長	堀江 隆臣	教 育 長	藤本 敏明
総務企画部長	川端 義孝	市民生活部長	緒方 雅文
建設部長	澤村 弘史	経済振興部長	村川 和敬

教 育 部 長	舛本 伸弘	健 康 福 祉 部 長	野崎 秀満
上天草総合病院事務部長	松本 精史	総 務 課 長	和田 好正
財 政 課 長	坂田 結二	会 計 管 理 者	木本 昌亮
水 道 局 長	藤島 幸治		

---

5. 職務のため出席した者の職・氏名

議 会 事 務 局 長	山下 正	局 長 補 佐	海崎 竜也
主 事	木本 臣英		

---

開議 午前10時00分

○議長（田中 勝毅君） おはようございます。

出席議員が定足数に達しておりますので、これより会議を開きます。

報道機関から写真撮影の申し出がありましたので、これを会議冒頭のみ許可します。

本日の議事日程はお手元に配付してあるとおりです。

---

日程第1 一般質問

○議長（田中 勝毅君） 日程第1、一般質問を行います。

通告があつておりますので、順次発言を許します。

10番、北垣潮君。

○10番（北垣 潮君） おはようございます。10番、北垣潮です。前回、声が小さい、あなたはカラオケをしないのでしょうかということをおっしゃったので、今回はボリュームを上げて頑張りたいと思います。

昨年、秋には合併10周年記念行事がありました。合併の効果について検証はされたのかということをお聞きします。私はけさ、出かけに、NHKで煮干しの話があったものですから、自分の書いたものを朝は検証もせずに来ました。煮干しが大変体によくて、牛乳の20倍のカルシウム量があつて、学校給食に取り入れたら欠席する子供がいなくなったとか、そういうことを言われておりました。30分ぐらいありましたので、それを見ていたんですけど。とにかく、合併10周年の検証をされたかということをお聞きします。

○議長（田中 勝毅君） 総務企画部長。

○総務企画部長（川端 義孝君） おはようございます。よろしく申し上げます。

合併して10年が経過したことの検証ということですが、市町村合併の検証については、多くの県内合併市町村が合併10周年を迎えることから、熊本県において、合併市町村の支援に

つなげることを目的として、平成26年度に市町村合併の効果や課題を整理するという一方で、検証作業が実施されたところでございます。

熊本県の検証におきましては、熊本県と熊本県立大学で連携するとともに、学識経験者や住民代表等による有識者会議を設置し、今、各委員から意見や助言をもとにアンケートを、合併、非合併を問わずに、地域住民であったり、地域団体、市町村を対象に行い、また、合併市町村及び合併市町村の地域団体に対してヒアリングを行うことで、データに基づく分析をされたということで、県のほうで合同というか、そういった形で実施したという形になっております。

以上です。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） 合併する前は、合併すれば町のほうでこういういいことがあると、いろいろなメリットを説明されました。もうデメリットはないような話でありましたけど、実際、合併して検証されて、メリット、デメリットはどういうところがあったのでしょうか。

○議長（田中 勝毅君） 総務企画部長。

○総務企画部長（川端 義孝君） まず、県の検証結果においてですけれども、効果や課題として、合併特例債の有利な財源を活用した新しいまちづくりの進展・財政基盤の強化や、支所機能の縮小などの効率化を進める中で、窓口サービスの利便性の低下等が掲げられております。

また、市町村合併に対する総合評価といたしましては、支所のあり方検討等の課題はあるものの、行財政基盤の強化、新しいまちづくりの動き等を考慮すれば、合併後10年の現時点においては、今回の合併は一定の評価に値するということや、合併により生じた行財政のスケールメリットがある間に、長期間を要する人材育成の基盤づくり等の時間的猶予を得たという意味は大きく、長期的な視点からも、合併は一定の評価ができるということで報告されております。

また、本市における合併のメリットといたしましては、同じく合併特例債を必要経費の財源として活用することができたことから、さまざまな住民サービスの提供に係るインフラ整備の進捗が図れたことであったり、上天草市職員定員適正化計画に基づく職員の定員管理により、合併時から現在に至るまで、約140人の職員を削減して人件費を削減されたことで、財政負担の軽減が図れたこと等が挙げられると思います。

また、デメリットといたしましては、職員を削減することで支所機能の縮小など、窓口のサービスの利便性の低下等も考えられるということはあると思います。

これまでの経験を踏まえまして、より効果的、効率的な行財政運営に努める必要があると思っております。

以上です。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） 合併してよくなった町と悪くなった町も、4町の中ではあるのではないかと私は思いますけど、その辺はわかりませんか。

○議長（田中 勝毅君） 総務企画部長。

○総務企画部長（川端 義孝君） 例えば、各旧町の単位での検証というのは、特に個別に実施しているところではございませんので、それぞれ上天草市として今後どうしていくかというのが大切かなと思っております。

以上です。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） 姫戸町もそうかと思えますし、龍ヶ岳町も役場がなくなったということで、役場の周辺にあった食堂とかそういうところは、廃業を余儀なくされたところもあります。とにかく寂れたということですね。それから、大矢野に移り住んだ人も何人もおられますし、職員だけじゃなくて一般市民の方も、何人も私の知っている人は大矢野に家をつくられて移り住んでおられます。

そういうこともありますし、合併前は、イノシシがいなくて野犬がいたが、合併すれば野犬がいなくなるというお話をされました。しかし、合併してみても、イノシシが出るようになって、この上天草市議会で何度言っても、大矢野が中心ということで、龍ヶ岳のことはという感じであり、イノシシ対策にはおくれをとったと。現在、大矢野でもイノシシの問題で困っておられますけど、本当はもっと早目にしておけば、その辺も何とか対処できたんじゃないかと思えます。

しかし、その中で、合併したら優秀な職員がいてよくなるというメリットも、旧町の合併推進協議会のときにしておられました。先日、同級生のお母さんから、アパートに住むひとり暮らしのおばあちゃんから、風呂の水が漏って困っていると電話がありましたので、早速、松島庁舎の都市整備課のほうに電話したら、すぐスタッフが二、三人来て、もう私より早く小屋川内というところに来て、いろいろ対処されておられました。私はアパートの中にいたんですけど、帰り際に名刺を差し出して、今度何かあったら、直接電話してくださいと優しく接する職員がいて、いい職員がいるなど私も感心したところでもあります。この辺は合併してよかったなど。まあ、決して龍ヶ岳町の職員が悪かったということじゃありませんけど、そういうこともあって、悪いところも、いいところもいっぱいありますけど、合併してよかったなど私も思ったわけでもあります。

次に、合併特例債についてお聞きします。合併特例債は、主にどのようなものに使われたかということと、その返済計画はどのように行う予定かお聞きします。

○議長（田中 勝毅君） 財政課長。

○財政課長（坂田 結二君） おはようございます。よろしく申し上げます。

合併特例債は、合併後、主にどのような事業に使われたのかということですが、合併特例債におきましては、市町村の合併に伴って、特に必要となる事業について活用できる地方債制度であります。充当率が事業費の95%、元利償還金の70%が交付税措置されるということになっております。

起債対象事業につきましては、新市建設計画に基づく施設などの整備事業や、地域振興に関する事業の財源としての基金積み立て、そういったものに充当するようになっております。

主な活用事例としましては、ハード事業に関しては、道路整備事業に大体5億9,000万円ぐらい、

それと、防災行政無線整備事業に関しては5億4,000万円ぐらい、松島庁舎及び保健センター建設事業に関して、4億1,000万円程度、消防救急無線デジタル化事業に関しましては2億円程度を充当しております。

それと、ソフト事業分になりますけれども、これにつきましては、上天草市地域振興基金の積み立てを行う際に、9億5,000万円借り入れておりますけれども、いずれの事業に関しても、合併後の本市の均衡ある発展のために不可欠な事業でありまして、有効に活用できているものと考えております。

もう一つ、返済計画についてはどのように考えているかということでございますが、ハード整備分につきましては、毎年度作成する普通建設計画において、事業の優先順位づけと事業量の抑制を図るということで、合併特例債を含めた建設地方債全体の起債と償還を計画的に行っております。

現在は、大体25億円程度の償還で推移しておりますけれども、償還表を管理しながら、返済の計画については決定をしているところです。返済分を超えない範囲で借り入れするのは当然でございますし、その必要が今後は出てくるということもあります。

それと、減債基金あたりを積み立てておりますので、償還に関しては減災基金を活用して、繰り上げ償還をしたりするという事業もありますので、その兼ね合いを見ながら、償還に関しては計画を立てながらやっているところでございます。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） わかりやすい説明です。

次に、民主党政権は上天草市にとって財政面からどのような政権であったのかということをお聞きします。

○議長（田中 勝毅君） 財政課長。

○財政課長（坂田 結二君） 民主党政権で、財政面からどのような政権であったかという分析に関しては、ちょっと厳しいところもあるわけなんですけど、財政面として、まず、国の経済対策に基づく地域活性化交付金について、本市の実績をお答えすることにいたします。

民主党政権における交付金といたしましては、平成21年度第2次補正予算で、きめ細かな臨時交付金、それと、平成22年度第1次補正予算で、きめ細かな交付金及び住民生活に光をそそぐ交付金が創設され、都道府県や市町村に交付されております。

本市の交付額といたしましては、三つの交付金の合計で7億3,065万6,000円となっております。その内訳に関しましては、平成21年度補正になりますけれども、きめ細かな臨時交付金4億4,080万円。平成22年度補正分ですけど、きめ細かな交付金2億345万3,000円。それと、住民生活に光をそそぐ交付金8,640万3,000円でございます。

きめ細かな臨時交付金では、老朽化した橋梁や施設の補修、45事業ありましたけれども、そういった事業に充当しております。きめ細かな交付金につきましては、地域の活性化ニーズに応じたきめ細かな事業として、漁港施設の改修や道路改良、そういった28事業に充当しております。

す。それと、住民生活に光をそそぐ交付金、平成22年度補正になりますけれども、これまで光が当てられてこなかった事業として、消費者行政活性化事業など、基金造成を含めて7事業を実施しております。

このように、平成20年秋のリーマンショック以降、数次にわたって国の経済対策が実施されておりました、当市においても、それぞれの交付金の趣旨に応じて有効に活用し、一定の成果は上げられたものと考えております。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） 民主党政権になって、地方の自治体の財政はよくなったということもお聞きしておりますけど、どうでしょうか。

○議長（田中 勝毅君） 財政課長。

○財政課長（坂田 結二君） 国の事業で、交付金とかが最近は交付されるような政策になっておりますけれども、必ずしも、この交付金を全部活用しながらということで、国の政策に乗っかって、事業をどれだけでも多くされるかということ、うちの財政的な面もありますので、どれだけでも膨らますことはできないという、そこら辺の調整が今後にも必要になってくるかと思っておりますので、一概に民主党政権のときによかったかという判定は、ちょっと私のほうではできかねるところになると思います。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） 前政権のときはできなくて、補助金が出たという事業も私はあると聞いております。例えば、大矢野中学校の体育館の補助金とか、赤潮対策、熊本県には50億円来たんですけど、長崎、鹿児島、約50億円ずつですね。今までこういうのは、前政権ではなかったわけでありまして。赤潮に遭われ、自分で命を絶たれた人も何人もおられました。私は、そういうことで、赤潮対策に、政権をとっているんだからということで強く県連でも要望し、牛深とかも視察に行ったこともあります。

ほかに、国道266号線、龍ヶ岳町赤崎から倉岳間の改良工事。前市長は、自分が国県道路整備促進期成会の会長であるから自分がとってきたみたいなことが県議選のチラシに書いてありましたけど、これは小沢幹事長のとき、各県でおくれているところはないかということで、幹事長のほうから県連に連絡があり、地方議員に聞いてくれということで、熊本県はあそこを上げさせてもらいました。これが真実であります。

それから、大矢野町に2カ所ある荷さばき所、それに、森林林業再生基盤づくり交付金の松島庁舎建設もそうだと私は思います。

去年、元副市長と前建設部長が逮捕されましたけど、彼が副市長になったとき、いろいろ陳情に来られ、3月に樋島大橋の補修工事、松島の港大橋の補修工事とかも要望に来られました。私も、もうちょっと前市長と仲よくやっていたら、まだ上天草市はよくなったんじゃないかと今、後悔しております。本当に私は、天草から来た要望書というのはABCで言えば、ほとんどAランクで上げておりました。よそのを見れば、CとかDとかあったわけでありまして。苓北の田嶋町

長なんかしょっちゅう来ておられて、総務課長が同級生の弟さんだったということもあって、私ももとは水産高校におりましたので、第2のふるさとという感じで頑張ってやりました。

もう、民主党のことは置いて、県立松島商業高校が合併しなかった場合、存続した可能性があったと私は思いますけど、市長のお考えをお聞きしたい。

○議長（田中 勝毅君） 堀江市長。

○市長（堀江 隆臣君） 松島商業高校と天草東高校と当時の大矢野高校の3校の統合については、議会でも大変な議論になっていまして、北垣議員が当時、松島商業高校を残したいということで、大矢野高校と松島商業高校の二つを存続させるべきだという意見を言われていたのを今、思い出しているところでございます。

県立高校の再編につきましては、市町村合併がどうというよりは、まず少子高齢化に伴って、学校の適正化計画というのが恐らく先にあったんだろうとっております。ですから、仮の話はなかなかしにくいんですが、仮に市町村合併がなくても、学校の再編計画というか、再編化の議論には恐らくなっていたのではないかと思っております。その中で、松島商業が残ったかどうかというのは、なかなか明確に答える材料がなくて、今の時点というか、私のほうからはその可能性について言及することは、非常に難しいかと思っております。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） 1回目の県立高校整備の説明会が、志柿の教育会館であったときは、対象となっていました倉岳高校、天草東高校、松島商業高校、大矢野高校、4校とも残して校舎制にすると。校舎制というのは、今、苓明高校と苓洋高校、昔の天草農業高校と水産高校が一緒になって天草拓心高校となって、本渡校舎と苓北のマリン校舎とありますけど、そういうふうにして校舎制として4校とも残す、そして、松島商業高校に校長先生を置くという説明でした。ここで県の説明が終わっておけばよかったんですけど、将来的には、松島商業高校を残すという説明でしたので、倉岳の議員さんから猛反対を受けまして、いろいろ意見を大概言われておりました。大矢野高校関係者からは何もありませんでしたが、自分としては不気味でもありました。

そのうち、大矢野高校の体育館に県の教育委員会を呼んで説明があるということで、私も同僚議員から誘いを受けて、市の職員とかもいっぱいそこには出席されて、もう体育館に入り切れない人が集まっておりました。そして最後は、大矢野高校を残そうという、エイ、エイ、オーというのが始まりましたので、私は1人その場に座り込みました。当時はまだ合併して一つの市という感じではなく、最近、川端前市長が松島庁舎を建ててから、私は、やっと一つになったような気がするところであります。

その後、平成18年9月21日の第5回定例会において、上天草市議会は、熊本県知事、潮谷義子様、熊本県教育長、柿塚純男様に対して意見書を出すことになりました。その中の2番目に、上天草市内に必ず1校を、一つの高校を残すように強く要望するという、本当に県が望み、上天草市民が望まない、そういう要望を出しました。上天草市に二つの高校があれば、どんなによか

ったでしょうか。市長の考えをお聞きしたい。

○議長（田中 勝毅君） 堀江市長。

○市長（堀江 隆臣君） そうですね。結果論としてしかちょっと申し上げられないんですが、今、1校の上天草高校も、定数に対して入学者が非常に少ない状況で、2校存続になった場合に、じゃあ、果たしてそれぞれ学校として運営できたのかどうかというの、またちょっと考えないといけない部分ではないかなと思いますし、恐らく2校でスタートしてみれば、また違った結果になるかもしれません。だから、そこはちょっと私もまだ明確に言えないんですが、今の時点では、どちらのほうよかったということは、明確にはちょっと申し上げられないと思います。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） 一昨年、熊本商業高校に行かれた上天草市の生徒さんが、姫戸町の人だったんですけど、いじめに遭い自分で命を落とされました。そして昨年、新聞記事に載っていましたが、その子供さんのお父さんも同じ場所で命を落とされました。県の教育委員会、学校側の対応が悪かったんだろうなと私は思いますし、松島商業高校があればこんなことはなかったのにと、そういう思いで、私は今回、この松島商業高校のことを出しました。

確かに今回、後ろ向きな質問でありますけど、過去に目を閉ざす者は、現在に対しても盲目となると、ドイツで10年間にわたり大統領を務められたワイツゼッカー氏の名言であります。本当に過去に目を閉ざせば現在も盲目となる。確かに、過去の検証は、私は必要だと思います。このことについても、市長にお考えをお聞きしたい。

○議長（田中 勝毅君） 堀江市長。

○市長（堀江 隆臣君） そうですね。県立高校について、こういった形で検証するかということもあるんですが、そこら辺は県立高校の再編について、そういった御指摘をいただいているということは、県のほうにも申し上げて、今後、唯一の高校である上天草高校に対しても、伝統がある松島商業高校のいいところを今後も引き継いでいくようなやり方を考えてくれということは申し上げられると思いますし、そういった部分については、上天草高校の校長先生とも意見交換の中で申し上げていきたいと思います。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） 最後のところで、また上天草高校への科増設について、市長にもお願いしたいと思います。

次に、増田寛也さんの地方消滅という部分で質問します。増田寛也さんは、大体の話でしょうけど、2010年から2040年までの若年女性の人口の推移を見て、マイナス50%以上のところは、もう地方消滅になると、そういうことを発表されております。私も本当に危機感を持っております。以前からそういうことで、私も一般質問でもそれらしき質問をしてきましたし、川端前市長もこの問題、これに直接じゃないでしょうけど、企業誘致とか、いろいろ頑張っただけで、実際には、何と申しますか、中国とか賃金の安いところにはどうしても勝てないわけ



で、日本でも道路事情のいい利便性のあるところに企業誘致も持っていかれるような感じで、実際には、余り成果は上がっておりませんでした。しかし、頑張っておられたかなと私は思っているわけでありませぬ。

地方消滅、2010年から2040年まで若年女性人口、子供を産む二十歳から39歳までと書いてありますが、実際は、二十歳じゃなくても子供は生まれるかもしれませんが、約ということでありませぬけど、上天草市も熊本県下の市ではマイナス65.5%で、1番に挙げられております。この状況について、どのような考えをお持ちでありませぬか。

○議長（田中 勝毅君） どっちですか。

○10番（北垣 潮君） 地方消滅というこの状況について――。

○議長（田中 勝毅君） 市長ですか。

○10番（北垣 潮君） 誰でもいいです。

○議長（田中 勝毅君） 総務企画部長。

○総務企画部長（川端 義孝君） 私のほうから少し。

地方消滅ということにつきましては、昨年、平成26年5月8日に発売された日本創成会議の人口減少問題検討分科会が発表しました、ストップ少子化・地方元気戦略がもとになっていると聞いております。その中で、増田リストで、全国全ての自治体において、総人口と若年女性人口が2010年から2040年にどう推移するかを予測されたものだと思っております。

地方消滅に関しましては、実際、本格的に人口減少社会に突入した現状と、特に地方の急激な人口減少の予測など、人口が急減する社会に厳しい警鐘がなされ、非常に衝撃を受けたところがございます。この予測の中では、本市は消滅可能性都市の896自治体の中に当然入っておりまして、県内自治体でも6番目に人口の減少率が高い自治体として位置づけられているところがございます。当然、人口減少につきましては、本市にとっても早急の課題でありまして、非常に危機感を感じているところがございます。

これを踏まえまして、当然、今後の市の運営の中で、人口減少の歯どめに対していろいろな施策を打っていく必要があると感じております。

以上です。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） 確かに、熊本県内では、五木村、山都町、小国町、球磨村、美里町の次の6番目で、市の中では1番目に挙げられております。

若年女性の人口がふえているところもあるわけでありませぬ。若年女性の人口のふえる対策はどうされていかれるかというのは、消滅と言われて、畜生、そうなったまるかということと、本当に危機感を持って、全市民、全議員、全職員で取り組んでいかなければ、本当に上天草市は消滅すると私は危機意識を持っております。この対策として、何か市のほうで妙案はありますか。

○議長（田中 勝毅君） 総務企画部長。

○総務企画部長（川端 義孝君） 地方消滅論の内容を踏まえたところで、今後どのような施策

が必要と考えているかということにつきましてですけれども、昨日も、まち・ひと・しごと創生総合戦略の中で、国としても女性の子育てであったり、出産であったり、そこら辺に十分手厚い支援をしていくというのが、もう目玉になっております。その中で、ストップ少子化・地方元気戦略、この予測に限らず、本市の人口が今後も減少する見通しであることは明らかなため、第2次総合計画で掲げました人口減少に対応するための方向性を踏まえながら、引き続き対応していく必要があると考えております。

この後、本市におきましては、まち・ひと・しごと創生に関する取り組みといたしまして、本市の将来の人口の見通し及び人口減少に対応するための方向性を示す、地方人口ビジョン並びに地方人口ビジョンを踏まえた、平成27年度から平成31年度までの具体的な取り組みを示す、地方版総合戦略の策定を、平成27年度中に予定しております。

今後、民間事業者を交えました推進会議を設置しまして、同会議におきまして、地方人口ビジョン及び地方総合戦略の詳細な内容について議論が行われていく予定でありますけれども、その中で示すことになる施策につきましては、当然、重点的に推進する必要があると考えているところでございます。

以上です。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） 人口が、若年女性がふえているところもあるんですね。ずっと見てみますと、経済的に豊かなところですよ。私が思うには、まず、所得をふやす。上天草市民の所得をふやす政策をやっていければ、上天草市も若年女性増加率の何番目かに入るんじゃないかと思えますし、後ろ向きな話ですけど、松島商業高校がなくなっても、熊本の高校に皆さんが行けるように所得を上げる、そういう政策を打ち立てればいいんじゃないかと思えます。

前市長のことばかり言って悪いかとは思いますが、前市長は本当に、彼のいいところも私はあったと思います。打ち上げ花火みたいにドーンと大きいことを発表されておりました。堀江市長を悪く言うんじゃないんですけど、堀江市長は線香花火のような感じがして、何か寂しいなど、議会に来てから。今回は、大分元気になってちょっと安心しておりますけど。川端前市長みたいにバーンとこれをやるとか、そういうことを私は望むわけでありまして。上天草市民全体が元気になるような施策を打ち上げてほしいと思います。

次に、国道266号線について質問します。前島にあまくさ村がオープンした場合、1日当たりの観光客数及び車両はどれくらいになりますか。

○議長（田中 勝毅君） 経済振興部長。

○経済振興部長（村川 和敬君） おはようございます。よろしくお願いたします。

あまくさ村がといたしますか、リゾラテラスと聞いておりますが、そちらのほうがオープンした場合に想定される1日当たりの観光客数と車両数がどのくらいかということですが、運営会社であります藍の村観光株式会社におかれまして、施設整備に当たり、独自に、前島地区における交通量調査を実施されております。そのデータをいただいておりますので、そのデータと平成23年

度天草地域の観光統計のデータ、そして、現在の藍のあまくさ村で調査された乗り物別集客数データををもとに、観光客数見込みと車両台数見込みを試算されたところで御報告をさせていただきたいと思います。

この調査の結果をよりますと、前島地区におきまして施設を建設された際の年間の観光客数につきましては86万3,161人と算定されております。この数値を1年、365日で割りますと、想定される1日当たりの観光客数につきましては、2,365人ということになります。

また、想定される1日当たりの車両数についてでございますが、平均乗車人数を3.5人と仮定いたしますと、674台ということになります。この平均乗車人数の3.5人と申しますのも、実際の年間の来客者数と、それから入り込み台数、車の台数を割ったところ、3.5人という結果が出ておりますので、そちらのほうの数値を使ったということでございます。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） 今でも土日は多いんですけど、リゾラテラスがオープンしたら、大概、混雑するだろうな、渋滞するだろうと言われる、そういう声を聞きますけど、渋滞対策についてはどういう考えをされておりますか。

○議長（田中 勝毅君） 経済振興部長。

○経済振興部長（村川 和敬君） 渋滞対策につきましては、本市といたしまして、交差点改良工事において、渋滞解消及び安全対策のために、国道266号に右折レーンを設置することといたしております。また、現在の押しボタン式の信号を定周期の信号に変えていただくよう、上天草警察署を通じて、熊本県警察本部のほうに要望をいたしております。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） それで渋滞がなくなりますか。

○議長（田中 勝毅君） 経済振興部長。

○経済振興部長（村川 和敬君） 先ほど、1日当たりの車両数が674台と申し上げました。前島の開発が終わりまして整備された後は、駐車場が314台を予定しております。そうすると、1日当たり674台ですので、駐車場は314台ありますと、今現在の藍のあまくさ村の実績からすると、十分駐車場の台数は足りるということですので。あと、実際のピーク時に何台来るかということで、渋滞がどのぐらいになるのかというのが、今のところちょっと予想はできませんけども、ある程度の渋滞は予想をしているところです。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） 1年を365で割られましたけど、今、部長が言われたとおり、確かに土日とかは、またこれとは違う数字になるかと思えますし、私はとても混雑すると思えます。現在のあまくさ村は交通整理係がいて、車が来たとき整理されておりますから大分違いますけど、信号機がつけられたらもっと渋滞するんじゃないかと思えます。

前の話にまた戻りますけど、元副市長が選任されてから陳情に來られました。2号橋から1号橋のところまでの4車線化をお願いしたいとして、もう4車線にできないんだったら、3車線化、

上りだけを2車線にしてほしいという要望書を出されました。私も、Aランクで皆さんに諮って、Aランクで上げましたけど、今後も国とかに3車線化を要望されるべきじゃないかと思えますけど、どうお考えでしょうか。

○議長（田中 勝毅君） 経済振興部長。

○経済振興部長（村川 和敬君） 現在の交差点改良工事につきましては、社会資本整備総合交付金を活用して行います。そういうことで、今も線形も設計書も終わっております状況です。工事につきましては、きのうも御答弁いたしましたとおり、そちらのほうで進めさせていただきたいと思いますが、渋滞の状況によりましては、確かに3車線化ということも考えられます。ただ、その道路の、今の現状の幅員とかの状況も考えなくてはできませんので、そちらのほうは、今後、熊本県それから熊本県警察本部との協議が必要になってくると思えますので、今後、検討させていただければと考えております。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） 何か堂々めぐりのような感じでありますので、とにかく渋滞対策は、前市長も県議選のパンフレットに3車線化をするということを書かれておりました。とにかく渋滞対策はどうにかしないといけないという状況であります。

次に、龍ヶ岳町赤崎から倉岳町浦までの事業費は現在、幾らになっておりますか。

○議長（田中 勝毅君） 建設部長。

○建設部長（澤村 弘史君） おはようございます。よろしく申し上げます。

国道266号線の改築事業につきまして、県の天草広域本部土木のほうに確認をいたしております。計画延長につきましては、4,000メートルとなっております。現在、望薩峠工区として整備延長が2,100メートル、事業費としましては、トータルで29億円を予定しております。平成21年度より着手をしております。各年度の事業費といたしましては、平成21年度、2,000万円、平成22年度、2,500万円、平成23年度、3,700万円、平成24年度、1億1,500万円、平成25年度、3億3,400万円、平成26年度、3億9,200万円、ことし平成27年度でございますけども、3億円の事業費となっております。合計の事業費としては、平成27年度まで合わせたところで12億2,300万円となっております。

以上です。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） 私は、県議選のパンフレットに望薩峠区間を65億円獲得したと川端前市長は書いておられたので、このことを聞いたわけでありまして、大分違う。印刷屋さんが間違えられたかもしれません。

市長は、天草地域国県道路整備促進期成会の会長であります。国県に対する要望書、陳情書はどこまで公開しておられますか。

○議長（田中 勝毅君） 建設部長。

○建設部長（澤村 弘史君） 天草地域国県道路整備促進期成会につきましては、天草市、苓北

町と上天草市の2市1町で期成会をつくっております。内容につきましては、天草地域の国道、県道の状況として、国道が3路線で改良率95%、県道は地方道7路線で改良率が62.1%、一般県道、平成26年の改良率が39.1%という状況でありますので、地域住民が安全で快適な生活を送れるよう2市1町にて本期成会を立ち上げて、県の知事部局及び県議会へ毎年要望活動を行っているところでございます。

お尋ねの要望活動の公開でありますけれども、現在のところ公開はやっておりません。ただ、今年度8月に期成会の総会を計画しておりますので、その際、議題として取り上げ、公開すべきとなった場合はどういう方法で公開すべきかまで、あわせて審議していただきたいと考えているところです。

**○議長（田中 勝毅君）** 北垣君。

**○10番（北垣 潮君）** 私は、民主党政権になって陳情・要望を受ける立場になって初めて、要望書、陳情書ですかね、整備促進期成会のそれを見たわけであります。本当に龍ヶ岳町の望薩峠なんかも小さくしか書いてないんですよ。今までそうだったと思います。合併する前、合併の説明会が本渡の市民センターでありました。安田市長がそのとき、龍ヶ岳町が天草のほうに合併すれば、トンネルをつくってやるという話をされましたので、安田市長にはそういう権限があるのかなと私は思っておりましたけど、本当にあれを見て、安田市長には権限があったのかなと。もうちょっとあの付近も大きく1番目に書いてあれば予算も取れたんじゃないかと私は思った次第であります。

あと6分になりました。最後に、上天草高校への科増設について、これは前向きな意見でありますのでよろしくお願いします。

上天草高校へ地域の船主さんから、船の免許を取れるような航海科とか、そういう科の増設をしてもらえないかという要望をたくさん受けました。今、船は好景気で、1軒の家で何隻もつくっておられるところもあります。船主さんが言われるには、いい家ができているところは、市の職員か船員さんと。だから、船員さんをふやすことが、市の財政状況も、皆さんの懐ぐあいもよくなるということを言われておりましたし、なるほどなと思いました。昔は、我々の同級生はほとんど船乗りの家か、船回しをされているところの子供でありましたし、現在は、もうトラック輸送に変わられて、船を回される人は本当に少なくなりましたけど、とにかく上天草高校にそういう科の増設を、県に対して市長からお願いできないでしょうか。市長、どうでしょうか。

**○議長（田中 勝毅君）** 堀江市長。

**○市長（堀江 隆臣君）** 結論から言ってできると思います。できると思いますというか、今おっしゃるように、船員さんの育成については、日ごろから私も随分御提言をいただいていますし、おっしゃるように、経済に対しての影響がすごく大きいと私も実感をしております。船員さんの育成であつたり、あと保健師とかも、医療とか介護の分野でも人材不足だということ指摘されていまして、上天草高校にそういった科の増設、新設を何とか県に言ってくれないかということも、日ごろから随分、御意見としていただいております。

上天草高校を見ましても、今200人の定員に対して、たしか100人に満たない生徒数だったと思いますし、福祉科が7人とか8人とか、10人もいない状況なんですよ。福祉科となるのかなり進路も限定されますし、中学校3年の段階で将来を考えろと言われてもなかなか結論が出せないだろうと思う中で、そういったところも含めて、また違う科の創設に向けての動きを学校側とも協議してやっていければと思います。よろしいですか。

○10番（北垣 潮君） はい。

○議長（田中 勝毅君） 北垣君。

○10番（北垣 潮君） 私も若いころ、苓北町富岡の水産高校に行ったんですけど、水産高校にはその当時、熊本やら荒尾、玉名、八代、天草郡外からたくさんの生徒が船乗りで憧れて来ておりました。私も、教育事務所に勤めている友人がいて、水産高校がもうちょっと大矢野付近にあれば、熊本付近からもいっぱい来るだろうという話もお伺いしたところでもありますので、とにかく船員をふやすような、上天草市がもっともっと豊かになるような科の増設をお願いして、今回、一般質問を終わろうと思っておりましたけど、地方創生のさっき話がありました。地方創生の中に、中央は副市長の人材とかもやれるという話がありましたので、市長は大変だろうなと私は思うわけでありまして。地方創生のためにも、副市長を置かれたらどうかと私は思いますけど。

○議長（田中 勝毅君） 通告はしていますか。

○10番（北垣 潮君） 通告はしておりませんでしたけど。

○議長（田中 勝毅君） 堀江市長。

○市長（堀江 隆臣君） 地方創生に関して、国とか、いろんな民間とかひっくるめて、そういう人材を派遣するコンシェルジュとかそういう制度があるのは聞いているんですが、副市長としてどうかというところまでは、ちょっと私も聞いておりません。

○10番（北垣 潮君） わかりました。

○議長（田中 勝毅君） 終了しました。

○10番（北垣 潮君） どうも済みません、終わります。

○議長（田中 勝毅君） 以上で10番、北垣潮君の一般質問が終わりました。

ここで10分休憩いたします。

休憩 午前11時01分

---

再開 午前11時11分

○議長（田中 勝毅君） 休憩前に引き続き再開いたします。

6番、宮下昌子君。

○6番（宮下 昌子君） 6番、日本共産党、宮下昌子です。それでは、通告に従い、質問いたします。

まず、市政運営についてですけれども、今年度の施政方針について質問する予定でしたが、通

告期限が開会日前日で間に合いませんでした。そこで、市政運営についてということで、市長が昨年12月の市長選挙の折に出された、マニフェスト実現へ向けてということで通告しております。示された施政方針の内容も含めながら質問いたします。まず、マニフェストでは大きな五つの項目が上げられています、一番最初に上げられているのが、去年の職員幹部の不祥事を受けて、全力で市政の信頼を回復し、そして再建するためということです。まだ、信頼回復も再建も途中だと思いますが、また、今回、問題が起きてしまいました。市民の皆さんに御心配をかけてしまったことは、議会の一員として残念でなりません。市民の皆様からもお叱りの電話がかかってくる。議会では特別委員会も設置され、今議会で協議され結論が出ることだと思います。市長もマニフェストで行政の倫理観の向上を掲げられておられますが、私たちも含めて、行政にかかわる全て者が倫理観について、いま一度、深く考えなければならないのではないのでしょうか。

さて、今年度、重点的に取り組む施策ということで通告しておりましたが、施政方針では、人口減少に対処していくために必要な働く場所の確保と充実に向け、市の基幹産業である農林水産業分野及び観光産業分野に重点を置いた予算編成をしているとの説明がありました。前市長も同じようなことを言っておられましたが、同じことをするのは、堀江市長らしさが出ないのではないかと思います。3月議会での当初予算では、最低限必要な事業を計上した骨格予算ということでしたので、6月補正で何か考えておられるかなとも考えておりました。まずは、大型事業の見直しをして、地方創生についても10月をめどにということですから、この後ということかもしれませんが、重点を置いた農林水産や観光分野で、自分らしさを出すための何かお考えがあればお聞かせください。

○議長（田中 勝毅君） 堀江市長。

○市長（堀江 隆臣君） まず、今議会に提案しております補正予算は2億3,000万円ぐらいだったかと思うんですが、議員おっしゃるように骨格予算を組みまして、今定例会が肉づけ予算という位置づけでございましたが、議員御指摘のように、結果として、そう大きな目玉がある事業を盛り込んだ予算ではございません。

先ほどのお話にもあったように、大型事業をまだ控えておりますので、そういったところをある程度精査しないとというか、ある程度進捗させて、工事の完了まで道筋をつけなきゃいけないというのも当然ありますし、老朽化した施設も、実際まだたくさん抱えています。そういった維持補修についても、非常にお金がかかります。そういったところを考えると、なかなか大きな事業をぽんと盛り込むような予算編成ができなかったというのが現実でございます。

マニフェストの中にもあったように、大型公共工事、大型事業について見直すということを明言いたしまして、例えば図書館であるとか、弓道場あるいは給食センター、さんばーの増設とか、予算化しなかったものも実はたくさんあって、それでも、今年度は財政調整基金を取り崩さなければならなかったというのが、今のうちの自治体の財政力の現状だと思っております。

ですから、ここは本当に、質問の中でもありますように、じゃあ、何に一番力を入れて取り組んでいかれるかという御質問もあるんですが、挙げた五つの柱というのは全部重要で、どれがと

いう優劣はなかなかつけられないんです。やはり今後のことを考えると、地方創生ですよ。人口流出をどうやって防ぐかというのも柱として上げていますが、今、一番気持ちの中で強いのは、それに対する総合戦略をとにかく秋まではつくり上げて、本当に財源が乏しい自治体なので、いわゆる地方創生に対する交付金、地方創生としての事業に採択していただけるような具体案を何とかつくっていききたいというのが今の気持ちでございます。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番（宮下 昌子君） 先ほどの質問でも、前市長との比較で花火の話が出ていましたが、大きな事業をするということもあるかもしれませんが、私としては、市民の皆さんの生活を、足元を見てもみますと、今、大変皆さん、所得は減り、仕事はない、そして上天草市の場合を言いますと、定年退職をされた高齢者がふえてきたということもあって、なかなか皆さん厳しい生活をしておられます。実際、私たちが市内を歩いてみましても、例えば市営住宅に住んでおられる方から、老朽化による修理とかそういう話も出てきます。それで、そういうことにも手をつけていけば、それも相当なお金がかかってくると思いますので、今後、市長がどこに自分のあれを置くかということが大事になってくるかと思います。

今、市長もおっしゃったように、地方創生総合戦略ということで考えておられると思いますが、私も人口流出、特に若い人が仕事なくて、外に出て行かざるを得ない。親もできたら市内に残ってほしい、本人も市内に残りたいと思っても、仕事がないために出て行かざるを得ないというのが多いと思います。それで、やはり仕事場、働く場所をつくるということが地方創生総合戦略の中でも最も急ぐべきことだと私も考えます。行政も、民間もみんなで知恵を出し合い、学ぶべきところは他市や専門家にも学んで、お金がないだけでなく、出すべきところには出すことも必要かと思えます。ぜひ、まず市民の皆さんの足元を見て、いろいろやってほしいと思います。

次に、教育環境の向上についてですが、施政方針では、つり天井などの耐震改修工事を計画しているということでした。後ほど、小中学校の統廃合問題は取り上げますが、ここでは、エアコン設置についての市長のお考えをお聞きしたいと思います。

近年は温暖化による異常気象が続いています。きのう梅雨入りした途端に豪雨ということで、けさ来るときに江後あたりは冠水しておりました。やはり、昔はなかった集中的な暑さだったり、雨だったりというのがここ何年と続いております。子供たちにとって、少々の暑さ寒さというのは体の鍛錬ということで、そういう意味では少しは我慢することも必要ではないかと思えますが、本当に近ごろの暑さは異常ということがあります。また、私たちの子供のころに比べたら、今の子供たちの生活環境というのかなり変わってきております。今はどこの家でもエアコンが設置され、子供たちは快適な暮らしに慣れてしまっています。異常気象による熱中症も心配されますし、また、黄砂とかPM2.5という環境汚染もひどくなってきておりますので、子供たちが学習する面で、窓をあけられない日というものもあるのではないかと思います。

一度視察に行ったときに、ちょうど夏だったんですが、特に生徒数の多い大矢野中学校は、中



学生になると体も大きいですから、教室の後ろまで満杯状態で、扇風機が回っていたんですけども、その扇風機も生ぬるい風が回るだけで、やはり汗を流しながら子供たちが勉強しておりました。そういう意味で、エアコン設置もかなりの予算を伴いますが、エアコン設置についての市長のお考えはどうかということをお聞かせください。

○議長（田中 勝毅君） 堀江市長。

○市長（堀江 隆臣君） 明らかに、私が小中学校に通っていたころよりは気温も上がっていると思いますし、きょうも雨が降ってまして、閉めると大変蒸し暑い中で授業を受けているんだろうなと想像しています。子供たちのためには、つけてやりたいなという気持ちは本当に強くあるんですが、これは概算の数字になるんですが、今の市内の小中学校の普通教室全部に冷暖房施設を設置した場合が、約7億1,400万円の費用が見込まれておりまして、そのランニングコストとして、毎年4,600万円程度が必要ということでございます。先ほどの話ですが、7億1,400万円という費用も捻出が非常に困難な状況で、毎年5,000万円のランニングコストも、明らかに財政的には負担がのしかかると思っています。ですから、つけるにしても全部を一気につけるとするのは現実的に非常に難しいと思っています。

今後、エアコン導入を少しずつでも進めていくということになるとすれば、どういった学校のどういった教室を優先するかというのを、少し優先順位をつけないといけないんじゃないかと思っていますよね。例えば低学年の児童に対して優先するのか、例えば受験を控えている中学3年生とかそういったところを優先するのか、あるいは夏の期間に限定されますし、利用の中では、例えば、みんなが集まる図書室なんかを優先するとか、そういった形でどこを優先すべきかというのを少し教育委員会で議論をいただいて、あとは予算の範囲内でやるしかありませんので、そういった形で、教育委員会に一度議論をしていただきたいと思います。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番（宮下 昌子君） 今、市長から答弁がありました。予算は7億1,400万円ということで、かなりの大きなお金がかかります。今、暑いということでかなり続いておりますけれども、学校保健法で夏の気温は25℃から28℃となっております。実際に現在の教室がどんなふうになっているかというのは、これは通告しておりませんでしたので、数字までは求めませんが、実際に学校では測定はされているかどうかというのはわかりますでしょうか、教育部長。

○議長（田中 勝毅君） 教育部長。

○教育部長（舩本 伸弘君） 御質問の件ですけれども、確かに私たちも詳細に調査をしているわけではございません。ただ手元に、現在、龍ヶ岳小学校のほうに冷暖房が導入されておりますので、一応、龍ヶ岳小学校におきましては、夏場は29度以上であれば使用するとか、そういった状況はございますので、確かに教室によっては、当然、30度を超えているような状況が続いているという判断はしております。

以上です。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番（宮下 昌子君） 先ほど、市長もつけたいという気持ちはあるということで、優先順位をつけて、教育委員会と協議していくということでしたけれども、人数にもよると思いますけれども、各教室の日中の暑さといいますか、そういうのを一度測って見たらどうかと思いますので、その辺のこともぜひ、ことしの夏はちょっと学校に要請して、気温をはかるということをしていただけたらと思います。

特に中学生になると、受験を控えていれば夏休みなんか学校に行くことがあると思いますので、学校によっては、図書館とか特別教室にエアコンがついていて、そこで学習するというのもあるかもしれませんが、その辺のこともちょっと調査していただければと思います。

調べてみましたら、昨年の4月時点では、県内のエアコンの設置率ですけれども、23%ぐらいでした。しかし、その後、大きな熊本市でも設置を決められて、今後、全教室に設置をされるようです。実際に設置しているところでは、子供たちの授業態度が落ちついてきたという声もあるようです。学習力アップにもつながると思いますし、もちろん、予算の面がありますので、いろんなことを考えながらやっていかなければならないと思います。グリーンカーテンであったり、屋上緑化ということもあると思いますが、そういうものと並行して、ぜひこれは協議して、毎年、少しずつでも取り組んでいただけたらと思います。よろしくお願いします。

次に、まち・ひと・しごと創生総合戦略についてですけれども、このことについては、もう、きのうの質問でも取り上げられておりました。きのう、石破大臣の言葉も出てきましたが、うちのまちをよくするためにと地方から案を言ってくれば人も出すし、お金も支援するが、やる気も知恵もないところはごめんなさいだとおっしゃったそうなんです。このことは私も知っておりましたが、はっきりとどういうふうなのというのがわからなかったもので、きのう、ちょっとネットで調べてみました。こんなふうにおっしゃったんだそうです。

私は、地方の衰退というのは、私たち地方自身に責任があるのではなくて、長年の自民党政府の政策が間違っていたのが原因ではないかと思っています。それなのに、この総合戦略というのは自治体間で競争して、どこがいいものを出すかということですが、自治体を競争させて、上から目線で頑張ったところにはお金をやるぞという、そういう偉そうな言い方といいますか、そういう言い方にはちょっと私はこのとき腹が立ちました。腹が立ちましたが、こういうふうにしなさいということになっておりますので、頑張ってみんなでいい案を出してやっていかなければ、市民の暮らしが向上しないとすれば、頑張るしかないのですが、議会のほうには先日説明があり、具体的にはこれから推進会議をつくりということですが、市長もこれに相当力を入れてやっていくというさっき答弁だったと思います。

今年度の重点施策ということでお尋ねしましたが、施政方針でも、活力ある上天草市を取り戻すために、地域経済の発展に資する事業を実施していくとありました。今年度は事業の精査ということでありましたので、今後4年間に重点的に取り組みたいことというのは、先ほどの地方創生に絡んでということでありますけれども、もし、数値目標があれば、その目標を市長御自身がどんなふうにご考えておられるのかということをお聞かせください。

○議長（田中 勝毅君） 堀江市長。

○市長（堀江 隆臣君） 今回の地方創生について、数値目標を今できたかというのは、そこまではできていません。ただ、去年策定いたしました第2次総合計画においては、2万9,000人をどうにか維持していくという方向で策定をされております。第2次総合計画も中身をよくごらんいただくとわかるんですが、人口減に対してどう対処していくかというのを具体的に検討されて、それぞれ数値化をされて目標設定がされております。今回の地方創生とかぶる部分も実はありまして、そちらのほうも去年策定したわけですから、意識しながらやっていかないととは思っています。

ただ、これは私の個人的な印象ですが、去年の第2次総合計画というのは、観光と一次産業にかなり特化した計画になっていますので、先ほどちょっと北垣議員の中にもあったんですが、例えば海運業とか、そういったものの地域経済の中での占める生産量というのはすごく高く、自治体規模の貢献度というのは全国でも1番じゃないかという意見があるぐらい取り組んでいます。とにかく、地方創生というのは行政だけではなくて、民間、例えば金融機関とか、幅広い意見の中から分析をして、どこに上天草市としての生産力というか活力があるのかを分析して、そこに徹底的に連携をとって支援をなささいといったやり方になっているんですね。

きのうの話になるんですが、地方創生というのは、基本的にハード整備というのには重きは置かれておりません。ですから、どちらかというとソフト事業のほうが中心になります。ということは、行政がどうかじゃなくて、民間が主役で、どうやったら頑張ってくれるかというそういう政策をやれということですよね。ですから、民間と連携をして、民間の活力あるところと一緒にやるというのが基本と私は思っていますので、今後も民間の方と意見交換しながら、どういう形をやったら雇用がふえるかとか、さっきのように所得がふえるかとか、そういった部分につながっていくと思いますので、そういった形で御理解いただければと思います。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番（宮下 昌子君） ありがとうございます。海運業ということで市長はおっしゃいましたけれども、海運業というのは地場産業、地元の産業ということで、私もやはり、企業誘致とか、外からの人たちを呼び込むといういろんなことがありますけれども、まずは、地元の業者の仕事がふえて収入がふえていくことによって、上天草市にとっては税収が上がる、そういうお金の循環ですから、ぜひ、地元の産業には力を入れていただければと思います。

私も人口流出という点では、大変考えていまして、先ほども出てきていましたけれども、今、少子高齢化が進んで、近ごろ本当によく耳にする限界集落という言葉であったり、地方消滅という言葉が、ますます私たちの不安をあおるような感じで、先行きを心配するところもあると思いますけれども、地場産業、上天草市内で頑張っておられる地域の方々を後押しすると、そういうこともなくなるのではないかと思います。もちろん、行政主導ではなくて、先ほど市長も、民間が主役ということでおっしゃいましたが、やはり私もそこに住んでいる人たちが主役となって、みんなで知恵を出して、いろいろ、創生ということについてはつくり上げていけたらと思います。

これは、市民の皆さんにも、そういう意味では、ぜひ、皆さんが主役になっていろいろ出し合っ  
て頑張っていくんですよということをアピールしていただければと思います。

次に、女性管理職の登用についてですが、昨年9月議会の質問に対して、当時の部長が現状と  
計画ということで答弁しておられます。今も変わりはないように思いますが、このことについて  
は、私もいろいろ調べてみましたが、進まない背景には、合併後、正職員を減らし続けてきたこ  
ととか、働く体系とか、そういういろいろな問題が出てきました。それで、女性に限らず職員全  
体の問題として、再度、次の議会で質問したいと思いますので、今回は女性の登用についての質  
問は取りやめ、9月議会に先延ばししたいと思います。答弁の準備をしておられたと思いますが、  
申しわけありません。

次に、小中学校統廃合問題についてです。

ことし1月、文部科学省の公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引が公表さ  
れました。手引の改正は58年ぶりだそうです。全国的にも20年ほど前から統廃合が進み、現  
在ではスクールバス通学もふえているために、通学距離が小学校で4キロ以内、中学校で6キロ  
以内に加え、通学時間がおおむね1時間以内を一応の目安にするということが追加されておいま  
す。上天草市でも公立学校規模適正化計画をもとに進められているところですが、計画どおりに  
いっていないということで、この間、説明が少しありましたけれども、現状がどうなっているの  
かについて、まずお尋ねします。

○議長（田中 勝毅君） 教育部長。

○教育部長（舩本 伸弘君） お疲れさまです。進捗状況の質問について、回答いたします。

上天草市公立学校規模適正化基本計画は平成19年度に策定されたものでございます。計画で  
は、平成28年度までに小学校16校を6校へ、中学校を9校から4校へ適正化の予定でござい  
ましたけれども、平成26年度末の現在で、小学校が11校、中学校が7校でございます。計画  
に対しまして、達成率がそれぞれ68.8%、77.7%となっているところで、小学校で5校、  
中学校においては2校の適正化が完了したところでございます。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番（宮下 昌子君） 計画で、今進んでいるところを答弁していただきましたけれども、計  
画から多少おくられているところがあります。保護者の思いですとか、地域の思いなどがありま  
すので、もちろん計画どおりには進まないと思いますけれども、計画どおりに進まなかったと  
ころでは、どんな原因があったのでしょうか。

○議長（田中 勝毅君） 教育部長。

○教育部長（舩本 伸弘君） 申し上げます。まず、適正化計画の目的が、言葉のとおり、一応  
ある程度の規模の中で子供たちを育てたいということで、説明を申し上げているんですけど  
も、地元からすれば、規模の問題ではなくて、地域の中心であったり、地域の活動拠点であっ  
たりしますので、存続したいという御希望が強うございますので、その辺のお話と私たちのほ  
うの、先ほど申しました規模の話との調整ができていないという状況かと思っております。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番（宮下 昌子君） 教育委員会が月に1度開催されておりますけれども、その中で、この統廃合問題についてはどんな議論がされているのかなということ、ちょうど市のホームページから議事録をちょっと開いて見てみたんですけれども、議題にはありませんでした。平成25年の第2回、2月21日に行われたのと5月21日に行われた第8回ですかね、では少し話が出ていたと思いますけれども、その後、教育委員会の中では議題になかったと思いましたが、教育委員会の中ではどんな議論がされたのか、されなかったのか。議事録に載ってなかったので、されていないと思いますけれども、その辺のことはどうでしょうか。

○議長（田中 勝毅君） 教育部長。

○教育部長（舩本 伸弘君） 御質問に対してお答えします。

先ほど申し上げた基本計画は、教育委員会の承認を得て実施されているものでございますので、公式の場とは限らず、さまざまな機会を捉えて、委員への報告については、保護者との会議の開催時にいただいた意見や要望等並びに計画の進捗状況について報告を行い、承認をいただいているところでございます。

確かに、議事録への記載がおこなわれている部分もございますし、省略した部分もあると思いますが、公式でない場面でも報告がなされているということで、御了承願えたらと思います。また、直近では、平成27年1月から3月にかけて実施しました、維和小学校、中北小学校、中南小学校、湯島小学校、維和中学校、阿村中学校のPTA役員及び保護者の皆様との懇談会結果についての報告を行ったところでございます。

以上です。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番（宮下 昌子君） 教育委員会の中では協議されたけれども、議事録として載せていないということですかね。省略ということ、言われましたけれども、市のホームページには、毎月の会議の中では話し合いがあっているけれども、これには公表していないということでしょうか。

○議長（田中 勝毅君） 教育部長。

○教育部長（舩本 伸弘君） 済みません。言葉が足りませんでした。

議事のほかに、委員会室において、会議前とか議事終了後の懇談がございます。その席等で説明申し上げている部分がございますので、議事録に載らないという表現をいたしました。済みませんでした。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番（宮下 昌子君） ここに私、ちょっとプリントアウトして持って来たんですけれども、先ほど、部長が、平成27年の1月から3月までは、中南小学校で報告して協議しているということでしたけど、1月21日の第1回、2月、3月とありますけど、会議の議題としてはここには書いてないんですよね。だから、教育委員会の会議が終わった後とか、この中では議題

としてはなかったということでしょうか。

○議長（田中 勝毅君） 教育部長。

○教育部長（舛本 伸弘君） はい。おっしゃるとおりです。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番（宮下 昌子君） それはなぜですか。教育委員会の会議の中でその話をしなくて、会議録として載せない。ほかのところで話し合いがされるというのは、どういう理由があるのでしょうか。

○議長（田中 勝毅君） 教育部長。

○教育部長（舛本 伸弘君） 一応、報告という形になりますので、御意見等、議事録に載りにくい部分もあるかと思しますので、そういった部分での調整だったかと思っております。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番（宮下 昌子君） 私は、議会もそうですけれども、市民の皆さんは関心を持って見られるわけですから、何でも隠さなくて、きちっと情報公開はすべきだと思います。前回の質問のときにも言いましたけれども、情報公開ランキングが下のほうですよね。そういうことがあるから、そんなふうになっていくんじゃないかと思しますので、公開できない、どんな内容で話し合いがされたのかというのは特に気になりますので、そういう話をされたのであれば、協議をされたのであれば、きちんと情報公開はすべきだと思いますけれども、教育長はいかがお考えでしょうか。

○議長（田中 勝毅君） 教育長。

○教育長（藤本 敏明君） 失礼します。よろしく申し上げます。

部長の言うとおりでございます。報告はしていますけれども、私たちとしてこうしたいということ公開するのは、非常に難しい問題がありますし、全然しないじゃなくて、会議が終わった後、それから教育長室に集まったとき、そういうときに話題として出しているところでございます。そういうことでございますので――。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番（宮下 昌子君） 統廃合問題というのはとても大事なことですよ。保護者にとっても、地域の方々にとってもとても大事なことを、会議の場じゃなくて、場外で話し合ったりするものではないか。先ほど、平成25年度には載っていたと言いましたけれども、そこは、今、こういう現状ですという報告で議題に上がっています。だから、実際にそういうふうに見えるわけですから、ちょっと私はどうかなと思うんですけれども、きちっと情報公開はしていただきたいと思っております。

時間がありませんので次に進みますけれども、多良木町では、昨年、槻木小学校が7年ぶりに再開されました。ここは高齢者が70%で、限界集落とも言われていたこの地区を再生するために、町が移住者を募り、決断したわけですけれども。この移住によって、家族が一家族来て、一人の児童が新入生として入学したということで、もう既に皆さん御存じのことだと思います。こ

の多良木町の取り組みに関しては、教育長はいかがお考えでしょうか。

○議長（田中 勝毅君） 教育長。

○教育長（藤本 敏明君） 失礼します。

多良木町の教育委員会にちょっとお聞きしましたところ、平成19年度から平成25年度まで7年間休校していたと。平成26年度に1年生が1名入学したということでございます。その人は平成25年度に、その家族ですけれども、集落再生の一貫で――。

○6番（宮下 昌子君） いいですか。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番（宮下 昌子君） 時間がありませんので、過程はわかりますので、多良木町のこの取り組みに関して、教育長がどう思われているのかという、その点だけ答弁願います。

○議長（田中 勝毅君） 教育長。

○教育長（藤本 敏明君） このケースは、まち・ひと・しごと創生の政策パッケージに示された、休校した学校の再開支援の一つだと思えます。休校ですから、一人でも入学する子供がいれば開校するのは当然だと思えます。この槻木小学校の再開は、保護者の願い、それから町当局の施策、それから教育委員会の思いとが一致したものである、素晴らしい取り組みだなと思っております。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番（宮下 昌子君） 世の中は統廃合に進んでいっておりますが、一方では小学校を再開しているところもあります。学校の適正規模という言葉が出てきますけれども、学校の適正規模というのは、子供の実態や教育学的な見地から検討されたものではなくて、自治体の行政効率性から導き出された数字ではないかと思えます。市町村合併政策との関係でも、国の主導で推進させられてきたものだと思えますけれども、文部科学省は、統廃合の決定に際して、地域住民よりも保護者重視の方向性が示され、教育的効果などの説明をして、保護者の意向尊重を提起しております。

本当の地域の皆さんの声というのはどうなんでしょうか。地域の声が十分に聞き取られて、この統廃合というのは進んできたのでしょうか。地域から学校がなくなることで地域は衰退していきます。子供の声が地域やお年寄りを元気にするのではないのでしょうか。歩いて行ける距離にある小学校と、それを中心にした親や地域住民によるコミュニティが成長、発達を支える役割というものは大きなものがあります。

先ほど、多良木町のことで言われましたが、まち・ひと・しごと創生総合戦略では、小規模校の存続を選択する場合、活力ある学校づくりを目指した市町村の主体的な検討や具体的な取り組みをきめ細かに支援する具体策として、小規模校のメリット最大化策が手引に上げられています。小中学校の統廃合が地域の衰退を招いている現実は、この上天草市でもあります。市が決めたことだから仕方がないとか、世の流れだからとか、そういう諦めの声が地域の皆さんからは聞こえてくるんです。

まち・ひと・しごと創生総合戦略ということでは、これからいろいろ意見も出て、検討していくことだと思いますけれども、例えば今、検討されている教良木小学校ですが、教良木地区は松島商業高校がなくなりました。さらに中学校もなくなりました。今後、小学校までなくなってしまうと、ますます疲弊してしまうのではないのでしょうか。地域の皆さんも、子供たちの顔が見られない、子供たちがいなくなったら、猫とイノシシしかいないという声もあるんです、実際に。マイナスの方向に考えるのではなくて、多良木町の槻木小学校のように思い切った施策をすることも必要ではないかと思います。そのためには、いろいろ考えなければならないんですが、まずは子供をふやして学校を残すということも考えられるのではないのでしょうか。

まち・ひと・しごと創生総合戦略というのは、ことしの10月ということなので、いろいろこれから市民も含めて、みんなで一緒に考えていかなければならないと思いますが、上天草市で言えば、教良木地区のような自然豊かなところで子供たちを育てるというのは、とても大事なことだと思います。ぜひ、これは残すように、何かこのまち・ひと・しごとでできるのではないかと思うんですね。

例えば、よその自治体では、よそから入ってきて、そこに住宅をつくる人に手厚い補助をすることで若い世代をふやすというところもあります。私も思ったのですが、教良木地区に限らずどこでもですけども、空き家も相当ふえておりますので、市内外から子育て世代の若い人たちに住んでもらい、例えば住宅補助など手厚い支援をするということで、子供がふえるような対策を進めて、学校を何とか残すということを考えてもいいのではないかと思いますけれども、市長はどうお考えでしょうか。

○議長（田中 勝毅君） 堀江市長。

○市長（堀江 隆臣君） まず、学校の再編というか、統廃合については、保護者の方の御理解というのが大前提だと思います、地域もあわせてですね。先ほどもありましたように、地方創生でも、地域に学校を残して、地域、まちづくりをするのもありということになっていきますので、それはもう宮下議員おっしゃるとおりでございます。

先ほど、学校の運営の効率化の観点から、そういう流れでやってきたという御意見もございましたけど、今は学校を統合しても、新しい校舎の増設とか、さらにスクールバスとかということになると、正直言って、コスト面でも全然メリットはありません。ですから、そういった形で地域として取り組んでいって、人口減少に歯どめをかけるということが、もし本当に可能で、その地域に取り組むエネルギーがあるということであれば、それは地域とか、保護者とか、そういった方々の選択だろうと思っています。

ただ、一つ申し上げたいのは、何を最優先すべきかということと子供の教育環境だと思うんですよ。少人数でも、生徒が多くても、それぞれメリット、デメリットがありますので、どこがその地域の子供たちにとってメリットがあるかというのは、地域でよく考えて御判断いただければとは思っています。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。



○6番（宮下 昌子君） 私も一番に子供のことを考えるべきだと思います。例えば、教良木小学校が統廃合になってバス通学するとします。そうしたら、とても朝早い時間に起きて、子供たちはバスに乗って出かけるわけですね。果たしてそれがいいのか。子供の環境を考えるという意味では、バス通学がどうなのかということ。そして、少人数であれば、先生との個別指導の時間もふえると思いますし、学習力もアップになる、そういうメリットもあるわけですので、ここはぜひ、全体的な面から考えて、先ほど、統廃合してもコストが削減されるということではないということもありましたが、ぜひ統廃合せずにその地域を、それこそ、まち・ひと・しごと創生総合戦略ですよ。寂れていく地域を守るためには何が必要かということですので、今後、地方創生ということから、いま一度、皆さんと一緒に考えてみるべきではないかと思います。少人数学級——。何かありますか。

○議長（田中 勝毅君） 堀江市長。

○市長（堀江 隆臣君） 教育委員会のほうから言葉が出ないんですが、私が報告を受けているところによると、統合には、まだ慎重に考えたいというところも当然あるんですけど、統廃合に向けて、かなり前向きに考えておられる学校もあるので、そこは、それぞれの判断でもいいんじゃないかというところは、ちょっと申し上げたいと思います。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番（宮下 昌子君） 統廃合については、やはり慎重にすべきだとは思いますが、ただ、それぞれの皆さんの意見を酌み取ってする必要があると思いますけれども、私は学校がなくなることによって、その地域が衰退していくことに非常に危機感といいますか、強い思いがあります。そのためまち・ひと・しごと創生総合戦略だと思いますので、ぜひ、いま一度、これは行政や教育委員会だけの話じゃなくて、私たち、そこに住んでいる者も真剣にそのことについては考えなくてはいけないのではないかと思います。

少人数学級のことについても通告しておりましたが、時間が大分なくなってきましたので、それは省略させていただきます。

次に、国民健康保険について質問いたします。

国民健康保険税については、2年前に続き、今議会に引き上げの条例改正が上程されていますが、資産割を廃止し、財源不足を解消するための改正で3,000万円の増収になるとの説明でした。市民にとって一番負担感が重いと感じるのが国民健康保険税です。これは、以前、私が市民アンケートをとったときにもそういう結果が出ています。資産割をなくすことで、一部の人には軽減になるとは思いますけれども、所得のある人、そして世帯員が多いほど負担がふえるとの説明がありました。加入者の半分以上は増税になるのではないかと推測されます。資産割をなくすことで、約5,990万円の減収になるとの説明がありましたが、今度の引き上げで最終的には3,000万円の増収になるという説明でした。そこで、少し現状についてお尋ねしますが、現在の加入者数と滞納世帯数は、どれぐらいか教えてください。

○議長（田中 勝毅君） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（野崎 秀満君） 現在の国民健康保険の加入者数と滞納世帯数ということですが、平成27年5月現在の国民健康保険の加入者数ですけれども、9,473人です。それから世帯数でいきますと5,260世帯。それから、滞納世帯数は855世帯となっているところでは。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番（宮下 昌子君） 加入者でいきますと、ちょっと私が調べたのでは、毎年加入者は少なくなっているようです。ただ、医療費はふえているんですよ。加入者は減っているけれども医療費はふえているという資料がありました。滞納世帯が、今現在855世帯あるということですが、何分の1になるのかな。滞納すると、短期保険証とか資格証明書の発行となるわけですが、その数はどうなっていますか。

○議長（田中 勝毅君） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（野崎 秀満君） これも5月現在ですけれども、資格証明書の対象世帯数が341世帯の722人です。うち資格証明書交付世帯が275世帯で、471人。それから、短期保険証の交付世帯が66世帯で251人となっております。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番（宮下 昌子君） 資格証明書が341世帯の722人ですね。

○健康福祉部長（野崎 秀満君） 資格証明書交付世帯が275世帯です。

○6番（宮下 昌子君） 275世帯ですね。

○健康福祉部長（野崎 秀満君） はい。短期保険証のほうを交付しているのが66世帯で251人という形です。

○6番（宮下 昌子君） わかりました。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番（宮下 昌子君） 資格証明書が275世帯ということで、ちょっと私は多いなと思ったんですけれども。資格証明書というのは、窓口で10割を払わなくてはならないですよ。保険料を払えない世帯が滞納しているわけですから、その人たちが病気になったときに、窓口で10割を払えるはずはないと思うんですけれども。だから結局、ぐあいが悪くても我慢するか、そういうことにもなると思うんですね。前は、資格証明書の発行は、合併直後ぐらいはなかったと思うんですけど、ぐあいが悪くても我慢して、病院に運ばれたときには手おくれで死亡するということが全国では起きているようです。

私は、この資格証明書の発行というのは、そういう意味ではよくないなと思います。加入者の人たちは保険証がなければ病院にも行けないわけですから、何とか国民健康保険税は払わなくては行けないと思っている人が多いはずですよ。払いたくても払えないというのが現実だと思います。

先日も、消費税は上がるし、ますます商売が厳しくなる中、税金を納めるのは義務だから何とか頑張って払っているという方がおられました。そもそも社会保障へ回すということで消費税が始まって、それが3%から5%、さらに8%と。今度、先延ばしされましたが、10%にまた引

き上げるといことですよね。消費税が回されているはずなのに、社会保障制度というのは、どんどん改悪されているのが現状です。

医療保険制度改正案が先月27日に成立しました。これは大病院を受診するときの定額負担の導入や入院時の食事代の引き上げ、75歳以上の保険料軽減の特例を段階的に縮小するなど、新たな負担がふえることとなります。3年後には国民健康保険の運営を県に移すということにもなっています。この広域化ですけれども、さらに加入者の負担がふえるのではないかという心配の声もあります。市にとって、加入者にとって、広域化で影響があるのかないのか、メリット、デメリットはどうかというのをお聞きしたいと思います。

○議長（田中 勝毅君） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（野崎 秀満君） 広域化によって保険料の平準化といいますか、そういう形が図られると思っております。それで、今の上天草市の保険料ですけれども、平均で、今回算定して上げている分が大体6万円になるということで、市民生活部長から質疑のときにあったと思うんですけども。今、熊本県内の市町村の平均保険料というのは、6万500円という形です。うちの場合、一般会計からの法定外繰入金、これは赤字補填のために入れているんですが、これを当初のときに6,000万円を組み込んだところでの保険料の算定を平成27年度はやっているところですよ。

平準化によって、平成30年になりますので、ある程度、県の平均に近づけておく必要があると。そうなった場合に、今のままでいくと、急激に、一挙に上がる可能性がありますので、段階を踏んで上げる必要があると思っております。

○議長（田中 勝毅君） 宮下君。

○6番（宮下 昌子君） 上がる可能性があるから、急激に上がらないように段階的に少しずつ上げているという答弁でしたけれども、広域化になることによって、私たち加入者の負担がさらにふえるということが、今わかったと思います。

広域になった場合に、熊本市なんかはとても人口が多いので、全体の4割が熊本市だと聞きましたけれども、そういうところと足して割るわけですから、やはり上がると思います。

ここに新聞の切り抜きを持って来たんですけど、都道府県は年間にかかる医療費の見通しを計算し、医療費を賄うために市町村から集める分賦金の額を決める。分賦金の額は、都道府県が各市町村の人口や医療費、所得水準を考慮して決定する。同時に、市町村ごとの納付率目標や標準的な保険料率も示す。市町村はそれを参考に独自の保険料率を設定する。市町村がより多くの保険料を集めたり、住民の健康づくりに取り組んで医療費を少なくしたりできれば、住民一人一人の保険料額を安くすることができると書いてありました。つまり、市町村に対して、滞納者を減らし、医療費を減らしなさい、そうすれば保険料は安くすることができるんですよということだと思っております。上天草市にとってはなかなかこの医療費の削減というのは――。今、一生懸命頑張っておられます。担当の方たちは、医療費削減のためにいろいろ頑張っておられるんですけども、今、現状を見ると、人工透析とかいろいろそういうので、ちょっと詳しくは時間がなくな

りましたので、上天草市にとっては、なかなか医療費を減らすことは簡単にはいかないと思います。滞納者を減らすということも、より強制的な徴収をしなければならなくなるのではと懸念されます。やはり、広域化というのは、国民健康保険税の引き上げだけではなくて、いろんなデメリットがあるのではないのかと思います。

時間がなくなりましたけれども、きょう取り上げた小中学校の統廃合問題も国民健康保険のことも、財政効率化が優先された結果だと思しますので、本当に市民の立場に立って、行政として、それぞれの担当課で考えていただければと思い、今回の質問に取り上げました。地方創生ということでは、ともに私も頑張っていきたいと思しますので、それを付してきょうの質問を終わりたいと思います。

**○議長（田中 勝毅君）** 以上で6番、宮下昌子君の一般質問が終わりました。

これをもって、本日の一般質問は終了しました。

8日は資格審査特別委員会、9日は総務常任委員会、10日は経済建設常任委員会、11日は文教厚生常任委員会を開催しますので、関係委員会への出席をお願いいたします。

本日はこれにて散会いたします。

散会 午後0時12分